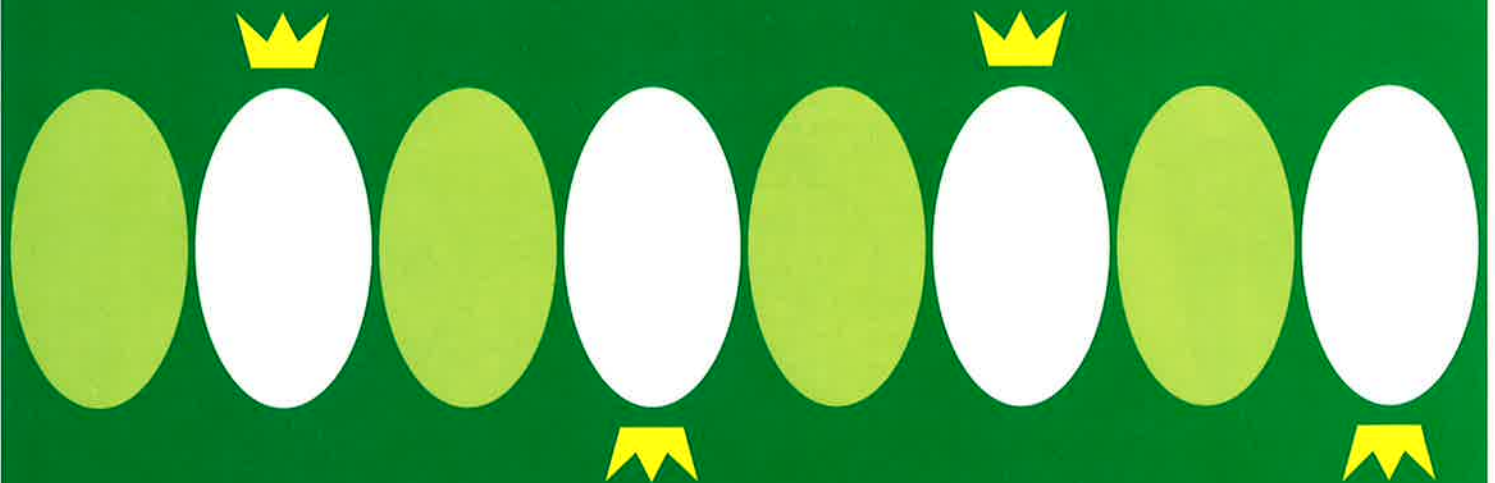


ありーて



もくじ

特集 仕事優先

でも、それでいいのかな？

わたしの時間がほしい

— ある共働き夫婦の一日 —

5人の男性が集まって。

それぞれの立場をこえて見えてくるものは

セピア色の写真から

こんにちは 女性行政室です

気になるコトバ

おもしろ数字

お便りから

「ありーて」は、自分の方で問題解決していく
イギリスの童話の主人公の名前です。
「私の未来は私が創る」とアリーナは言います。

わたしの時間がほしい

特集

仕事優先 でも、それでいいのかな？

夫

睡眠

起床 7:15

出勤 8:05

8:30

8:05 出勤

8:30 仕事 (13H)
残業

仕事 (13H)
残業

帰宅 22:00

就寝 23:30

睡眠

夫・妻に合わせた時間
約2H



7:15 長女と起床
布団をかたづける
金魚にエサをやる
新聞を読む
朝食 (テレビを見ながら)

- ・残業つづきで寝坊。アせる!
- ・ユウツな一日が始まる
- ・今日は早く帰りたい。ああ眠い
- ・食欲がわかない

- ・子どもに「今日は早く帰る」と言って出勤。また「ウソつき」と言われそう
- ・もうすぐお昼。なかなか仕事が進まない
- ・外は快晴。休んで遊びにいきたい
- ・今日は昨日より早く帰りたい



22:00 帰宅
夕食準備
(用意されたものと子どもの食べ残しをかき集める)
22:15 2女を相手に夕食
2女に本を読んで聞かせる
ビールを飲みながらテレビ (ニュース番組) を見る
23:30 就寝

- ・何回も読めとせがまれる。唯一子どもの相手をする時間なので言われる通りにする
- ・しばらく長女と遊んでないな
- ・テブへの道をまっしぐらか!

家族

夫 (33歳)	会社員
妻 (32歳)	//
長女 (5歳)	保育園児
2女 (2歳)	
夫の母 (63歳)	主婦

リストラ、時短、年俸制、男女雇用機会均等法、介護休業…。今、「働く人」を取り巻く環境が大きく変わるうとしています。共働き率62.7%を占めるという高岡市では、男性だけでなく女性にとっても大きな転機になりそうです。「働く人」たちの生活は徐々に変化しているようですが、本当は？そんな思いで、ある夫婦の日常をのぞいてみました。

ある共働き夫婦の一日

妻・家事などの時間

6・5H

妻

睡眠

6:30 起床

8:05 出勤

仕事 (9H)

18:15 帰宅

19:15 夕食

23:40 就寝

睡眠

6:30 起床
身支度
(お茶を沸かしながら)
洗濯機をセット
玄関掃除
朝食と弁当の準備
長女登園準備
7:30 朝食
(新聞を読みながら)
朝食後片付け
化粧、着替え

・静かに起きる
2女が起きるとペースが狂う
・後悔! 予約タイマー、ゆうべ
セットすればよかった
・あー。時間がない
新聞だけは読みたい
テレビ欄から...

8:05 子どもと
握手して出勤
(2女見送ってくれる)

・子どもとろくに話さないで出かける
かわいそうなことをしているな
・お義母さんに預けられて楽だけど、
ちょっと心苦しい

8:30 仕事 (9H)

・さて今日も与えられた仕事を
一生懸命こなそう
・子どもたち風邪がみだけど熱を
出していないかな

・今日は買い物なし
・早く家事をすませ、ゆっくり
しよう
・お義母さんから煮物をもらっ
ととても助かる

18:15 帰宅
着替え
おもちゃの後片付け
夕食準備

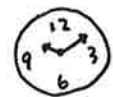
・(体調がよくない)
夫がいたら、子どもをお風呂に
入れてもらえるのだけど...
・子どもが大きくなれば洗濯物が
増える。ゾツとする
・かまってるのは、この
時間だけ
でも、早く寝てほしい。

19:15 夕食
夕食後片付け
洗濯機をセット
洗濯物取り込む&干す
(子どもたち、そばで遊ぶ)
部屋掃除&就寝準備
アイロンかけ
(2女横で歌を歌ったり、おしゃ
べりしたり...)
洗濯物を各自のたんすにしまう
子どもに絵本を読んで聞かせる
21:00 廃品回収に出すため古着のボタ
ンを取る
通信販売のカatalogをながめる

22:00 (夫 帰宅)
夫と今日の出来事を話す
夫の夕食の後片付け
米をとぐ (予約タイマーON)
長女登園準備
連絡帳記入、持ち物をそろえる

23:00 テレビ (ニュース番組) を見る
23:40 2女と共に就寝
どちらが先に眠ったかは不明

・夫が帰宅。これでちょっと助かる
・夫の帰りが遅いと、後片付けの仕事が増える
・明日は長女の苦手なプールの日
担任へのお願いを連絡帳に記入
書くのに意外と時間がかかる
・自分の本当の時間がなかなか
もてない



熱を出して
いないかなー?



早く寝たいからか...
おまの
おさん
は...

つぎ
どなた
か...



くるものは

なんだか、男も女も忙しそう・・・。
ところで、男性はそんな毎日の中で、
何を思い、感じているのでしょうか？

競馬レース!?

W 若い人たちの働き方は変わりましたね。3交替勤務でも、手当てよりも自分の時間をもつことを選ぶ人が増えている。

H 教員でも、勤め先ではなく、わが子の卒業式に出席する人が多くなりました。

Y うちの会社では、趣味と仕事が一緒になっている人が多いから、締切り近くの徹夜もなんのそのです。もちろん女性も同じ。創りだす喜びがあるから、仕事に時間を費やすことが苦にならないんでしょうね。

S じゃあ、普通のサラリーマンを仕事に駆り立てるものは？

E やっぱり、仕事を通しての「達成感」や自分も社会の中で役割を担っているということでしょうね。確かに「やらざるをえない」という部分もあるけれど、そればかりではないと思います。

S 「仕事」をおおして「輝く」ということは、確かにあるでしょうね。

W 私の30、40代は仕事一筋でしたね。「一旗あげてやる」の意気込みで頑張っていました。

E 僕も、20代のはじめは、仕事3割、家庭3割、自分の時間が4割の気持ちでしたんですけど、いつの間にか、仕事中心になって…。(笑)。

H 男は競馬レースにはめ込まれるようなものかもしれないですね。

W そうかもしれません。これといった趣味も持たず、家のことは女房に任せっきりで仕事のことだけを考え走り続けてきた。ところが、ある日、先が見えてしまふ…。今、「方向転換」の必要性を感じています。

思い込みは変わる…

S 仕事って、男性だけの問題じゃないですよ。

Y そう、女性も頑張ってる。

H 学校でも、女の先生が増えましたね。彼女たちは、男女を意識していない。だから、昇格試験を受けることもあたりまえのことなんですよ。

E だけど、正直いって、「えっ？」っていう働き方している人もいますよ。

Y 確かに、女性の社会進出が進んだとはいえ、「どうせ評価されないから…」とか「家のこともあるし…」と言いわける人はまだまだいる。事情はあると思うけれど、仕事を収入のためと割り切ってしまうのはもったいないと思うんです。使う側からすると、女性の感性をもっと活かして欲しい。

S それには、男性のバックアップが必要なのでは？
E でも、僕は妻が仕事に行くことは「従」だと思ってます。仕事を通じての刺激もいいとは思いますが、やっぱり仕事よりも家のことをしっかりやって欲しい。

H 男性にとつての「女性が働くこと」は、総論賛成各論反対のケースが多いんじゃないかな。職場では「女性登用派」であっても、自分のうちは違う、って入るでしょ？たとえば、奥さんの方がダンナさんより稼ぎも、社会的肩書きもよかったですね。これって、男だけじゃなくて、女もじっくりいかないのであ？当人はもちろん、周りの人はなおさらのこと…。
S 皆さん「思い込み」が強すぎるのじゃないですか。これがなくなれば、世の中もすいぶん変わらなと思うんですよ。

男と「家事」

S 家事はよくしています。子供も手伝っています。母の死がきっかけなんです。仕事を持つ妻は、寝たきりの母の看病とで疲労が重なり、これは私にもできることがあるんじゃないかと。

E 私の場合、核家族ということもあって、毎日の生活を維持するには自分も手伝わないと家の中が回らないですね。妻はあえて要求しませんが。

W 親と同居していると、やりにくい面があって。今までは手伝っていないです。だけど若いときはキチンと留守番や、家のことをしてくれていた親も、年とって留守番なんかを失敗するようになりまして。やっぱりこの先のことを考えてしまいますね。

H 現役の時とは家のことはなかなかできませんでしたが、前とはまったく思っていないませんでした。

S 買い物は毎日妻と二人でしていますが、楽しいですね。自分の食べたいものを選び、自分で家族の食事を作ったりすると、おいしい、ますいと考えられますよ。後片付けもやってみて妻の大変さを実感、ということがですか。

親おや？

H 若い人はわりとスムーズに育児にも協力しているようですが、年配の男性は、どうもねえ。子供は可愛いと思っはいますがほとんど無関心といったところでしょうか。

Y 子供が親を見てどう思うか、何を考えているのか、自分が家に居るときはよく見るようにしています。話もよくし、チェックもします。子供の前では絶対夫婦喧嘩をしないのがモットー。□やかましく言っつり、

5人の男性が集まって。 それぞれの立場をこえて見えて

「労働」に関する制度が一部変わりました

◇育児・介護休業法

制定／1992年4月1日

・育児休業

(1歳に満たない子を養育する休業)

1歳に満たない子を養育する男女雇用労働者が取得できます。

・介護休業

(常時介護が必要な家族を介護する休業)

雇用を中断することなく、一定期間介護のため休むことができます。

1999年4月1日から施行されます。

◇労働基準法の一部

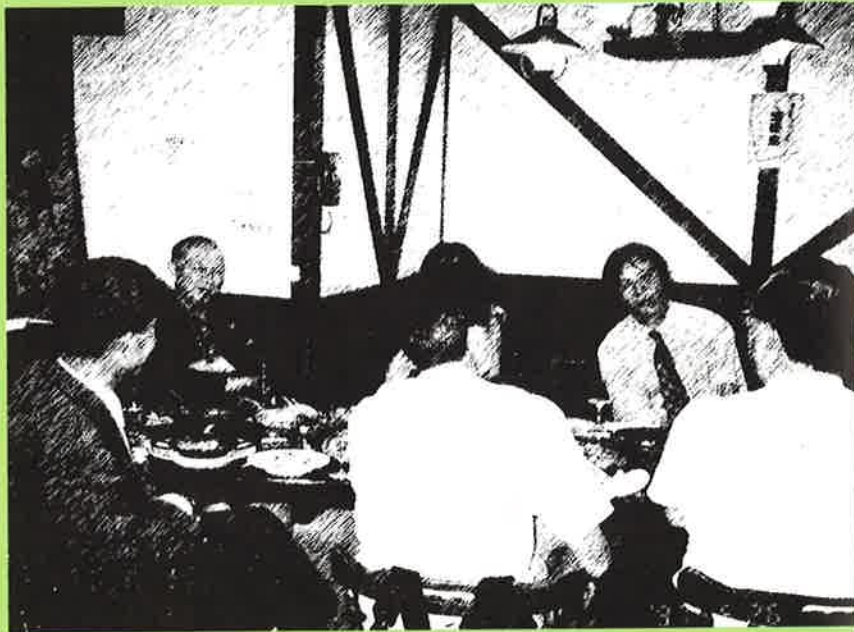
施行／1999年4月1日

・女子の時間外、休日労働、深夜業の規制が撤廃されます。

◇男女雇用機会均等法の一部

施行／1999年4月1日

・事業主が女性に対して差別(募集・採用・配置・昇進)しないことが努力義務であったものから禁止規定となります。



■出席者

- Hさん 元教員・62歳
妻・子供2人
- Eさん 店員・39歳
妻・子供4人
- Yさん 会社役員・48歳
妻・子供3人・祖母
- Sさん 自営・49歳
妻・子供2人
- Wさん 会社社員・50歳
妻・子供2人・両親

親の姿を見たり聞いたたりしたほうが子供には良いと思います。

W 仕事に忙しい30・40代の頃は、子供のことは全面的に妻にまかせっきりで、授業参観にもいってないんですよ。育て方について妻と話しはしますが…。

E 子供を育てることで、自分の子供時代を追体験できるんです。親子で二上山へ行ったりして、自分の子供時代にできなかったことを今、一緒に楽しんでいます。

一足のわらじ

H 退職して時間が十分あると、逆に時間を持て余してね。退職した仲間で現役のときはそうでもなかった人が今、イキイキしてるんですよ。趣味や友達つきあいで忙しく、心豊かな生活してますよね。現役のときから仕事一筋ではなく仕事以外の生きがい、つまり、一足のわらじを履くことが大事な気がします。

W 50代になって、妻との共通の趣味(ハーブ)を持って、休日と一緒に過ごすことが楽しみです。だけど、ほとんど私運転手なんですよ(笑)。うちのお婆あちゃんはその「音の人」ですから、たいした趣味もなく、友達もなく、家にも面白くないと思います。自分も、そうはなりたくないのですが…。老後のためにはなにかしらの趣味を持つことが必要じゃないかなあ。

近年「労働」に関する社会的制度が変化・充実してきていますが、制度のあたりだけではなく、男性も女性もよりよい「働き方」そして「生き方」ができるような活用が望まれています。

セピア色の 写真から

農業と私

「生きる」から

「どう生きるか」に



「この写真は、16か17の時のものです」



「結婚式の写真もないがです」

数えの16の時に、16歳違いのいとこに嫁いだ女性。将来を約束した人を待ち戦中、戦後を過ごしたという女性…。そんな時代に、市内の農家に嫁ぎ、50有余年にわたる農業に従事してきた、80歳前後の3人の女性にお話をうかがいました。

あたりまえのこと

— 農家というと、重労働とのイメージがありますが…

● 「(周りの人が)みんなそうだったし、あまり考えたことはないですね」

● 「仕事は朝の4時からやつとりましたね。近所の人から『ガタガタしとる音で目が覚めてしまった』と言われたもんです」

● 「来る日もくる日も、うつむいての仕事で、顔だけが汗をかくもんで真つ白やったわね(笑)」

● 「高岡の町まで、肥やしをもらいにも行きましたね」

● 「そうそう、あのころは砂利道でね…。あの頃に比べる

とずいぶん楽になったねえ」
● 「楽になったといえば、昔

は煮物やご飯焼きは藁でした。それから、ねか(こめがら)にかわりましたね」

● 「言えばきりがないけど、風呂は地獄風呂で、水は川から汲んできました。十束の藁を12使って、ちよどの湯かげんでした」

※五右衛門風呂

— 当時の楽しみは何？

● 「毎月15日のお寺参りですかね。お姑さんがおみやかして、お小遣いをくださるがです」

※お賽銭

● 「近所の人、数人で出かけて、愚痴を聞いたり、聞いてもらったりね。(笑)」

● 「それぐらいだろうね。子供のこと？ そりや大切ではあったけれど、なによりも働かなくちゃいけない。子供を『づぶら』に入れて田んぼに連れて来てたもんだわ(笑)」

※藁・木製の育児用具(乳児を座らせたまるい籠)

● 「5歳の子供が1歳の子供をおぶって、田んぼまで乳を飲ませに来てました」

● 「うちは子供が7人で、食べるためにお父さん(主人)

が冬、大工さんの手伝いをしていましたね」

● 「私のところは、3人兄弟でしたけど、それでもあまり構いませんでしたね。その子なりに育って、同じわが子でも、勉強の好きな子もいたし、そうでもない子もいましたしね…」

別の生き方

— 子供さんが大きくなり、農作業も機械化されて、余裕も出てきたと思うのですが…

● 「そうやね…。10年ほど前からようやく。でも、それまで趣味らしいものがなかったから、いまさら何かやるというのも難しくて」

● 「だから、一緒にやろうって誘ったがに。私は、五十になつてから習字に、お茶、お花を始めました。ずーっとやりたかったことで、確かに周りの目はあつたけれど『医者に行つてくる』と言つて通つたもんです(笑)。お花を習つたおかげで、花を育てる楽しみもできましたしね…。仕事つていうもんなは、際限のないものだと思うんですよ。どこ

かで『欲』を断ち切らないとキリがない」

● 「私は、和裁がしたかったがですちや」

— これからやりたいこと、やってみたいこと？

● 「畑は、元気なうちは続けたいですね。後は、本を読みたい」

● 「このっさんは、今でも野菜を売りに行かれてるんですよ」

● 「待つていてくださる人がいるのでね。誰かが喜んでくれるのなら、との思いで作つていきます」

● 「私も野菜を売つてたんですが、会話しながらが楽しいんですよ」

● 「若い頃に時間があれば、違つてたかもしれないね。だけど、やっぱり元気であれば、農業が一番でしょうね」

● 「多分、生まれ変わつても農業をやるでしょうね」
● 「私も元気なうちは感謝しながら農業をします。世の中の奉公になると思つています」

いごごちは 女性行政室です

男女の共同参画について考えていただく機会として、地域セミナーを実施しています。今回は、その様子を紹介します。

《ある日の地域セミナー》

▽ 某月某日 ×△公民館

○○○婦人会

今日のテーマは「夫婦、家族の関係について考える」

午後7時ごろ、夕食の片付けを終え20代～70代の方が20人ほど集まる。

▽ 今日、まず、ビデオを見る。

題は、「現代家庭考」。「結婚すると…共働き?」「生活の中心は…仕事?家族?地域社会?」「夫婦の呼び方は…お互いの呼び方、紹介の仕方?」など、これから結婚しようとする若い世代、中年、熟年の3組の夫婦の意識や行動を描いた内容。

▽ 次に「高岡市女性プラン」についての説明。教育・労働



職場の上司の理解が無く

・ 今の若い人たちは、自分

働・福祉の3つの基本目標とそれぞれの分野の具体的な施策、そして一人ひとりの意識の変化を期待し、市が一緒になって取り組む計画であるとの話。

▽ 少人数に分かれてビデオを見た感想、自分が思っていることなどを話し合う。

▽ 最後に、グループで話し合ったことを報告しあう。

子供の出生を機に仕事をやめました。でも、育児制度を使って、辞めずに働いていれば良かったと思う。

・ 子供に手がからなくなったのでパートにできるようになった。収入があるだけで夫が自分を見る目が変わった。家事は仕事ではないの?

・ 啓発ビデオをみるまで男女差別に気が付かなかった。

・ 娘が親(私たち夫婦)を見ていて結婚しないと云っている。親(母親)の苦労(家事も、育児も、仕事も)をみていると子供は結婚しながらないのは当然ですよね。もっと協力し合って結婚は良いものだと思わせなげや。

・ 「男は仕事、女は家事・育児」で育ってきた年代がいて、それらを見てきた世代は急には変わらない。

気になる「いごごち」

「いごごちクラブ」

○ 「いごごち」とは、親父(おやじ)をひっくり返した名前。

このクラブは1991年、神奈川県で設立された。代表は守永英輔さん。

○ グループの目的は、会社一

辺の従来の男性の生き方を改め、地域にも目を向け、会社で培った能力・経験・ノウハウを地域の抱える課題の解決に役立てようというもの。

また仕事だけでなく、家庭も地域も趣味も、すべてが大事なという現代女性たちの多様な生き方を参考にしようとい

うもの。

○ 肩書きや社会的地位にとらわれず、名刺交換をしないグループ。現在150人の男性会員が、地域で高齢者介護、ごみ問題などに取り組む。

○ 日本各地で、こうした仕事以外の男性のネットワーク作りや、男性たちの新しい生き方をめぐるグループ作りが盛んになってきている。例えば大阪市「おとこ倶楽部」愛媛の「パパスクラブ」など。

たちとちがい上手に夫婦で子育て、家事をしている。

・ なんとなく感じながらも漠然としていたことや、気づいていなかった女性問題が、ハッキリみえてきた。

等々…

▽ このように地域セミナー

では、話し合い等をおして、自分の感じている問題について他の人との共通点に気づいたり、自ら解決の糸口を掴んだり、さらに自分についても考えるキッカケをつかんでいただけたらと思います。

▽ 地域セミナーは、婦人会

や地域の団体、グループの希望する日時、テーマ(女性と仕事、高齢期の生活、女性のライフサイクル等)に応じて講義、話し合い、ビデオ等いろいろ組み合わせる出前講座として開催しています。ぜひ活用ください。



平成9年度女性プラン写真展
高岡市長賞作品
「走って!!先生」高田紀子

女性国会議員の割合

— 日本は125位 —

今年は総選挙のあった国々で、女性議員の進出がめだちました。

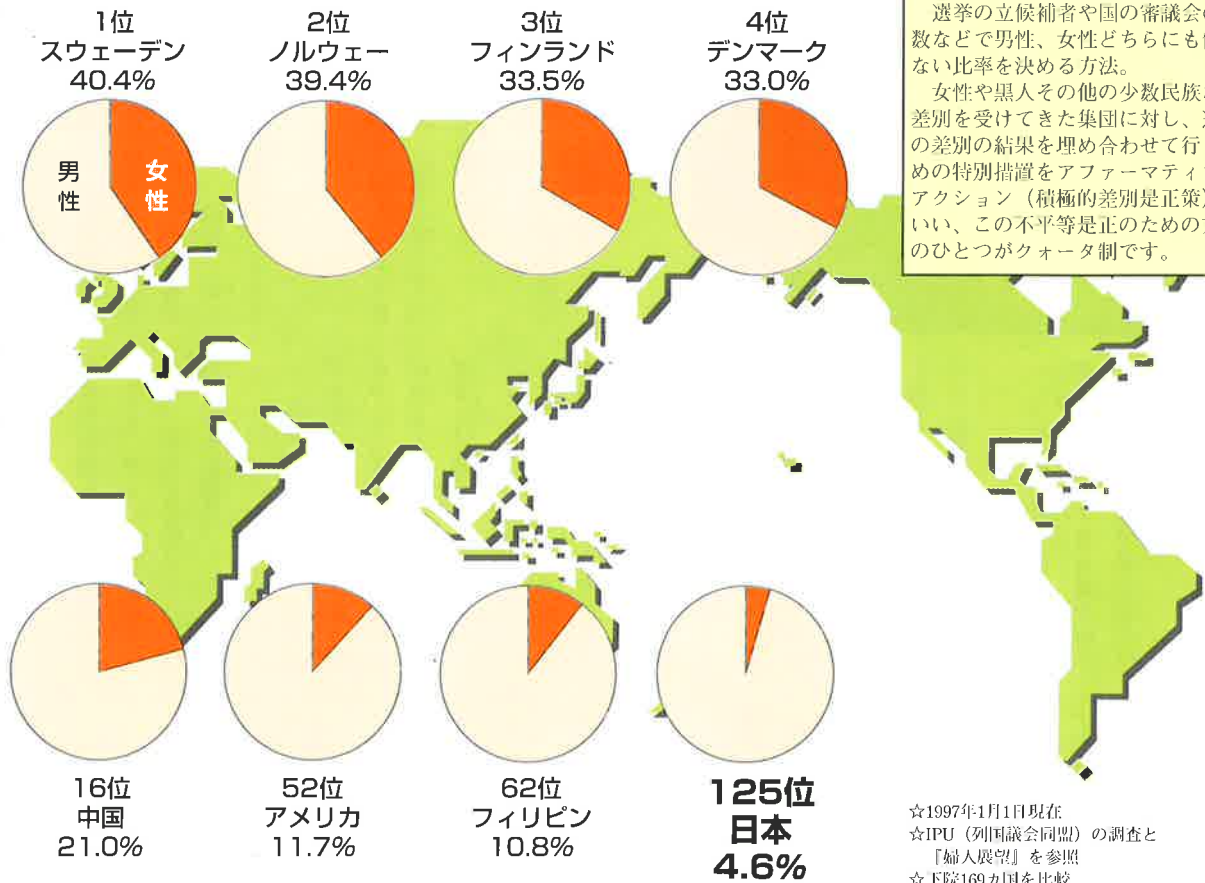
例えばフランスは6.4%から11.1%に、イギリスでは9.5%から約2倍の18.2%に増えました。

女性議員の割合が高いのは北欧やヨーロッパの一部。これらの国々では、クォータ制を導入しています。

クォータ制

選挙の立候補者や国の審議会の人
数などで男性、女性どちらにも偏ら
ない比率を決める方法。

女性や黒人その他の少数民族など、
差別を受けてきた集団に対し、過去
の差別の結果を埋め合わせて行くた
めの特別措置をアファーマティブ・
アクション（積極的差別是正策）と
いい、この不平等を正のための方策
のひとつがクォータ制です。



☆1997年1月1日現在
☆IPU（列国議会同盟）の調査と
「婦人展望」を参照
☆下院169カ国を比較
※下院（＝第一院。日本の衆議院に相当）

お便りから



創刊号を読んで12人の方（女性9人・男性3人）からご意見や感想をいただきました。

○ 男女は価値において上下という事はなく同価値。しかし、性質は異なっており、異なった性・（性質）の者どうしが競い合うのではなく扶け合う姿が望ましい。男女の調和を念頭にした特集を。

○ 家庭、職場等のセクハラ（言葉を含む）をあつめては。

○ 「ありて」の配布先が大切。「セピア色の写真から」は富山県人に限るのですか。

○ 毎号、基本的な人権とあらゆる差別に目を向ける平等意識を忘れさせないで。ありてトークサロンはいかがですか。

○ “配偶者控除” “制服のスカート（スカートの強制）”をテーマに取りあげて。

「ありて」の配置場所は、市役所1階ロビー、3支所、公民館、地区連絡センター、働く婦人の家、公的病院、郵便局本局等です。
お便りをお待ちしています。FAXかハガキでお寄せください。

編集後記

保育園児であった30数年前、赤痢に罹ったことがある。家に住みついたはずが原因らしい北陸・飛騨・愛知地方の民家の構造においてよくある「あま」（2階以上の空間）に、稲を刈り取ったあとの藁を大量に保存し、乾燥させ、農閑期の冬にそれを使って縄やむしろを編んでいた。その藁の山が、ねずみやへびの格好の寝床でもあった。当時、私の叔母がまだ高校生で同居していたのだが、その叔母も感染し2人で病院に隔離されたのを今でも覚えている。とんでもない子供時代であった。しかし、その頃のとんでもない体験の数々が、年をとる毎に鮮やかさを増している。街に住む私の子供達にとって、農村での体験が母親の単なる思い出話でしかないのが残念である。

表紙：モテモテ

国立高岡短期大学
藤坂 恵 四柳 智美
山下 千鶴 山下 美穂

編集員：中島 依子
間片 美代子
菅原 緑

発行／高岡市企画調整部女性行政室
〒933 高岡市広小路7-50
電話0766-20-1262
FAX0766-20-1661

(ま)